

やり抜く力（GRIT）

校長 山田浩之

アメリカ人を対象とした二つの大規模調査でも……「やり抜く力」の高い成人ほど、正規の学校教育において高等教育の上のレベルに進学していることが分かったのだ。

（書籍「やり抜く力」から）

新潟小学校の教育目標「たくましく美しく」には、目標を支える四つの資質・能力が設定されています。その一つに「やり抜く力」があります。書店で同名の書籍があったので手に取ってみました（アメリカの心理学者アンジェラ・ダックワース著ダイヤモンド社 2016）。

著者は、数多くの調査や事例から「やり抜く力（GRIT）」こそ、人生のマラソンで真に成功する資質・能力だと主張しています。一例だけ紹介します。

アメリカには、子どもを対象とした英単語スペリングの正確さを競う大会があるそうです。大会の数か月前に出場する子どもを対象に一人一人の「やり抜く力」とスペリングの練習時間を調査したそうです。その結果、子どもの「やり抜く力」のスコアを見れば、数か月後、最終的に誰がどの程度の結果を出すかを予想することができます。ことが分かりましたということです。つまり、「やり抜く力」の強い子どもたちは、どんどん勝ち進んでいったのです。

著者も述べているのですが、私は、

「やり抜く力」は、意図的に育てられるものだと考えています。そうでなければ、新潟小学校で育む資質・能力として設定できません。新潟小学校の子どもたちは、学習や様々な活動を通して「やり抜く力」を伸ばしています。六年生のある子どもは、この一年間で身に付いた力として「やり抜く力」を選び、次のように書いています。

（こども前市の）活動を考えていた時は、アドバイスや指摘をたくさんの方々にもらって「どうすればそれを解決できるのか」「この活動ができなかったらどうしようか」という不安で悩んだ時がたくさんありました。その時は、活動を考えるということ、すごく大変なことなんだなと実感しました。活動が変わってからも悩んだことがあります。家族や友達、先生などがアドバイスをしてくださったおかげで、こども前市をやり抜くことができました。

何かを実際にやり抜く経験は、「やり抜く力」を伸ばします。私たち大人がしなければならぬことは、子どもにやり抜く経験をさせるとともに、その過程で励ましやアドバイス、そして「あなたが、やり抜くことを信じている」という言葉をかけていくことだと考えています。